

# 公務員として地域に貢献するための 人間力を育成する

## 新潟公務員法律専門学校

(新潟県新潟市)

新潟公務員法律専門学校は、県内唯一の公務員に特化した専門学校で、公務員合格実績は全国トップレベルを誇る。秘書検定やサービス接遇検定を授業に取り入れ、人間力の育成に力を入れている公務員ビジネス学科の取り組みを取材した。

新潟公務員法律専門学校。  
新潟駅から徒歩5分の場所にあり、  
ショッピングエリアの万代シティにも近い

### 楽しく学びながら 幅広い力を身に付ける

新潟公務員法律専門学校は新潟県内に27の専門学校を展開するNSGカレッジリーグに所属し、2年制の公務員ビジネス学科、警察・消防学科、上級行政学科、1年制の卒業公務員学科、公務員速修学科の5学科16コースがある。職種別にコースが細かく分かれており、事務系、公安系、技術系の公務員を目指す学生がそれぞれの目標に向かって学んでいる。

同校の学生は県内出身者が多く、地域に貢献したいという思いから、公務員や県内での就職を希望する学生が多いそうだ。

同校の公務員採用試験状況について、塚本晃大教務部長は次のように話す。

「公務員ビジネス学科では、昨年度の公務員採用試験の合格実績が過去最高となりました。一次試験の合格率が93・8%、二次試験の合格率が97・8%です。教養試験や論文

試験を行う一次試験よりも面接試験を行う二次試験の方が合格率が高く、当校の学生は面接に強いといえると考えています」。

また、公務員以外の民間企業に就職を希望する学生もいる。事務系の職種では、JA、JRなどや医療法人で医療事務の職種を希望する学生が多いという。

平成28年2月、公務員ビジネス学科の「人間力育成プログラム」が文部科学省から職業実践専門課程に認定された。

「人間力育成プログラム」では、「基礎力」「国際力」「実践力」を養い、社会貢献できる公務員の育成に取り組んでいます。公務員合格を目指すだけでなく、さまざまな活動を通して学生に人間力を身に付けさせたいと考えています」と話すのは久代英俊副校長だ。

同校では日々のあいさつを大切にしており、「人間力育成プログラム」の基礎力の育成につながっている。授業開始前に全員でそろえてきくとあいさつを行うことで、公務員採用試験の面接試験の際にも自然なあいさつができるようになるという。基礎力の育成として他にも秘書検定、サービス接遇検定、コミュニケーション検定を学習し、ビジネスマナーの習得に励んでいる。

国際力の育成としては、シンガポールなど海外への視察研修を実施。実践力の育成では、学生がさまざまな活動に参加できる機会を提供し、役立てている。1年生の夏にインターンシップを実施する他、地域貢献活動を展開。地域貢献の意識が高い学生が積極的にボランティア活動に参加している。

さらに産学官連携事業にも携わり、同校の近くにある万代シティのPR事業に取り組む。平成29年11月には万代シティで、「十日町白倉自慢あめし食い亭」という十日町市白倉地区特

(左から)塚本晃太教務部長と、  
久代英俊副校長



(左から)秘書検定3級に合格した1年生の伊比愛香さん、  
サービス接遇検定準1級に合格した2年生の高橋佳織さんと  
岩崎愛さん



(左から)サービス接遇検定の授業を担当する  
大泉笙子先生と、秘書検定の授業を担当する  
北村沙織先生

産の米などの農産物を販売するマルシェを開催。農家の方からおにぎりの作り方を教わりながら、学生も一緒に作り販売した。県内の食文化を理解することは公務員の地域貢献活動につながる。

他にもさまざまなイベントに参加する同校。毎年7月にはNSGカレッジリーグの各学校が集まるNSG大学園祭に参加している。今年度は模擬店を出店し、新潟県内の各市町村のお雑煮の作り方を教わり、具材や味付けを再現し

て販売した。販売では秘書検定やサービス接遇検定で学んだことが役に立っているという。

ゼミ活動でもイベントに参加している。同校では専門学校としては珍しくゼミ学習を展開。それぞれのゼミに在籍する人数は10人ほどで、国際理解ゼミ、観光ゼミ、市街地活性化ゼミなどがある。各ゼミが、キャンパスベンチャーグランプリなどの学外のビジネスコンテストに参加し、競う。

学内でもゼミ発表を行い、学生はプレゼンテーション能力を磨く。人前で話すことに自信のない学生でも繰り返し練習することで、次第に自信を持って人前で話すことができるようになるそうだ。

「当校は、何事も楽しくやろう!という校風です。硬いだけではないですね。みんなで楽しく話せることが一緒に働きたいと思われる第一歩ではないかと考えています」と久代副校長は話す。

## 入学後すぐに ビジネススマナーを学習

公務員ビジネス学科では、1年生の夏期休暇に、約1週間のインターンシップを行っている。インターンシップの事前準備と面接試験対策をにらみ、1年生は4~7月の必修科目「ビジネススマナー」で秘書検定3級を受験。また、

1年生の冬から2年生の春にかけて開講する必修科目「ビジネス実務」ではサービス接遇検

定準1級を受験する。

「インターンシップでは市民の方々と、1年生の秋から参加する万代シテイのPR事業では商店街や企業の方々と接する機会が多く、ビジネススマナーを身に付ける必要があります。秘書検定やサービス接遇検定の学習を活用することで、より効果的にビジネススマナーが習得できると考えています」(久代副校長)。

熱心に検定に取り組んできた結果として、昨年度はサービス接遇検定準1級に合格した学生が日本秘書クラブ会長賞\*を受賞した。

必修科目「ビジネススマナー」では、秘書検定の知識や技能を学ぶ。指導を担当する北村沙織先生に取り組みの内容を伺った。

「ここで身に付けるのは最も基本的なあいさつ、お辞儀の仕方、ビジネススマナーです。名刺交換や電話応対など、ロールプレイングで確認しながら問題を解くことで、授業に飽きない工夫をしています」。

選択科目「ビジネス実務」ではサービス接遇検定のロールプレイングを授業に取り入れ、公務員試験の面接対策の導入として活用している。授業では笑顔の作り方、あいさつ、お辞儀、声の出し方など、よい印象の作り方を練習する。担当の大泉笙子先生はサービス接遇検定についてこう話す。

「サービス接遇検定準1級を受験すると、試験官に立ち居振る舞いを評価していただくことになります。合格することで、学生は面接での

\*日本秘書クラブ会長賞は、実務技能検定協会が毎年実施している成績優秀者表彰の賞の一つ



公務員ビジネス学科では万代シティのPR事業に参加し、商店街の活性化に取り組んでいる

立ち居振る舞いを認められたのだと自信を持つことができました。

サービス接遇検定準1級を受験した後に行われる公務員試験の面接練習では、すでに求められる立ち居振る舞いが身に付いており、外面についてのアドバイスが減るといふ。

「改めて『表情が硬い』『お辞儀が雑』など、印象について注意することはほとんどないため、内面のアドバイスに集中することができます」（大泉先生）。

## 学んだビジネスマナーを 公務員の仕事に生かしたい

公務員試験の面接練習に力を入れる同校では、さまざまな工夫をしながら指導している。毎年50人から80人ほどが受講する「ビジネス実務」では、サービス接遇検定のロールプレイングの指導を大教室で一斉に行う。そのため、これまでは学生一人一人の癖や間違っているところを一人の先生が細かく指導するのは難しかった。現在では、対象クラスの担任の先生もロールプレイングを指導できるように徹底し、先生方が協力して隔々まで手が届く指導ができるようになったという。

例年2年生が行う公務員試験の面接練習では、練習風景を1年生が見学する。1年生に

とっては2年生の姿をお手本にすることができ、2年生にとっては1年生の視線を感じ、一番さながらの緊張感の中で練習することができるわけだ。

公務員ビジネス学科2年生の高橋佳織さんと岩崎愛さんは、平成28年度の冬にサービス接遇検定準1級に合格した。

高橋さんは「人と関わることが好きで、マナーを学びたいと思っていました。ロールプレイング実習では、4人一組になってお互いにボードを見せ合い、書かれているセリフを自分の言葉で言う練習と、書かれているセリフを声に出して読む練習がありました。一緒に練習したメンバー同士でお互いのよいところと悪いところを伝え合えたことで、クラスメイトと信頼関係を築くことができ、練習の効果が上がったのではないかと思います」と話す。

岩崎さんはサービス接遇検定で学んだことを公務員試験の二次面接試験で生かしたという。「入室の動作やお辞儀の角度、笑顔で話すことに注意しました。実際の面接試験では面接官の方に『笑顔がいいね』『元気だね』と言っていたので、サービス接遇検定で学んだことが役立ったと実感しています」と笑顔で話してくれた。

公務員ビジネス学科1年生の伊比愛香さんは今年度の6月に秘書検定3級に合格した。伊比さんは「これまで敬語を学ぶ授業を受

けたことがなく、『ビジネスマナー』の授業で初めて学びました。しっかり身に付けることができたと感じています。将来、公務員になったときに上司や同僚の方との関係づくりに秘書検定で学んだことを生かしていきたいです。自分の立場をわきまえて振る舞うことも大切ですが、立場をわきまえた上で自分らしくさりげなく気遣いができるようになりたいと考えています」と今後の意気込みを聞かせてくれた。

「誠実」「明朗」「奉仕」を校訓に掲げる同校。久代副校長は「何事も皆で楽しく取り組む校風の中で、社会に信頼され、相手を気遣い、自分のことよりも人のことを先に考えて行動する人材を育成したい」と語る。

同校の学生の活躍の場はますます広がっている。

ビジネスマナーを学ぶ「ビジネス実務」の授業の様子。サービス接遇検定のロールプレイングを何度も繰り返して動きを覚える

